

平成 27 年 1 月 5 日

石上郷（長船町磯上）の古道を歩く

先史古代研究会

いそのかみ里山倶楽部

「石上郷の古道を歩く」を企画しました。古道を 4km 歩きます。山道です。
安木忠義さんに案内していただきます。皆様のご参加をお待ちしています。

12 月 6 日の講演「ヤマト政権の中心に立ち続けた吉備」で関裕二氏は、「左大臣・石上（物部）麻呂は、右大臣藤原不比等の陰謀によって失脚し、こののち日本は、藤原氏だけが栄える世の中に変貌していくのである。」と話されました。石上（物部）麻呂（640～717）縁の地が石上郷です。676 年に 37 歳で新羅に派遣されるまでの経歴は不明です。
石上麻呂は『竹取物語』で「かぐや姫に求婚する 5 人目の公家」です。

月日 平成 28 年 2 月 11 日(木)

雨天順延

集合 長船町磯上 湯次神社前 9 時

解散予定 15 時

昼食 弁当・水筒をご持参下さい。

ルート案内 石上郷の古道を歩く

長船町の湯次神社と磯上油杉地区の古墳をめぐります。磯上は『和名抄』の石上郷です。その中に油杉があります。磯上の油杉集落と山田集落の丘陵に巨大な磐座があり、油杉山に前方後円墳、大塚集落に横穴式古墳群があり、奈良時代には日光寺が創建され古代に栄えた地域です。

油杉(弓月)は秦氏が移住、祖神の弓月君を祀ったのが湯次神社です。油杉の磐座が石上神社跡です。石上（物部）麻呂縁の古社跡です。環状列石もあります。



■油杉城址

標高 36m ほどの独立丘陵で「城山」と呼ばれている。詳しいことはわかっていない。南側は断崖絶壁で城には適した地形である。



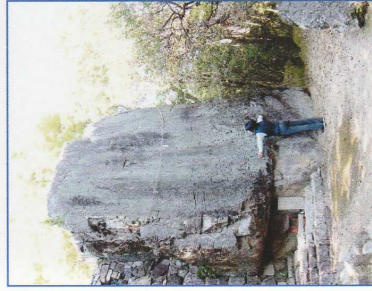
■牛神社

同神社は牛頭天王を祭神として、古くから農耕の神として信仰されてきたと推測される。この周辺の小字は「天王」という地名である。祭壇には備前焼の牛の置物が供えられている。
※牛頭天王 日本の神仏習合における神。京都東山祇園や播磨国広峰山に鎮座する神であり、蘇民将来説話の武塔天神と同一視された。インドの釈迦の生誕地に因む祇園精舎の守護神とされ、祇園神という祇園信仰の神である。陰陽道では天道神と同一視された。神仏習合では薬師如来の垂迹であるとともに、スサノオの本地とされた。現在の八坂神社にあたる感神院祇園社から勧請されて全国の祇園社、天王社で祀られた。・・・ウイキペディアから



■日向石神社 (石上神社)

この土地は天王といわれている。この神社のご神体は高さ約6mの垂直に切り立った磐座である。頂上部は直径約3mの円形になっていて神の天孫降臨がイメージ出来る雰囲気が高い。正に「石の神」である。また岩の東側下部には、岩の亀裂があり、巨岩と亀裂で雌雄として古代から信仰されていたかもしれない。社は太正時代に多賀神社に合祀された。また「いそのかみ」は、古語の「古い」「降る」の秘詞で、この地域に古くから人が住んでいた事に由来するとも考えられる。長船町磯上は『和名抄』に記載されている石上郷 (いそのかみごう) の比定地とされています。このようなことからいそのかみの地名の元になった場所とも推測できる。自然が生んだすばらしい景観である。



円形で平らな頂上部
天孫降臨をイメージ出
来る自然の景観である



社跡に建てられた石碑

■ストーンサークル (環状列石) 近年その存在が明らかに。

石神社から約 100 メートル離れた頂上部にある巨石群である。樹木に大覆われ、全体像がつかめなかった。中心に平らな巨石がありその石を囲むように列石がある。一番大きな岩は約7メートルあり、周辺には、小石が敷き詰められている。巨石は人為的に作られたものではないが、神に祈りを捧げる場として、またとない場所ではなからうか。近くに石上神社がある。北の裾野には、産土池や古墳があり神秘的な空間になっている。パワースポットの場所になり得る。



■油杉山古墳 (小村ヶ端古墳) 前方後円墳

この山頂部分に前方後円墳がある

磯上油杉地区から伸びる小山の上部に (標高約 34m) 東北東一西南西方向に主軸をおいて築かれていた。墳長 32.5m、後円部直径約 22m、後円部と前方部の上部に盗掘痕がある。築造時期については墳丘の形態から5世紀後半から6世紀前半と推測される。

